

小山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	国語 (1年)
科目基礎情報					
科目番号	0006		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	電気電子創造工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	3	
教科書/教材	『精選国語総合 (改訂版)』 (三省堂)、『新国語便覧』 (第一学習社)、『セレクト漢字検定 (三訂版)』 (桐原書店)				
担当教員	山崎 明,柴田 美由紀				
到達目標					
1. ことばや文章に興味や関心を持つことができる。 2. 適切な言語をもって、思考し、判断し、表現することができる。 3. 自らの言語能力を有機的に連関させ、他者と円滑に意見交換できる。 4. 日本の伝統的な言語文化に親しみ、思考や感性に共感できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	ことばや文章に積極的な興味や関心を抱くことができる。		ことばや文章に興味や関心を抱くことができる。		ことばや文章に積極的な興味や関心を抱くことができない。
評価項目2	適切な言語をもって、正確に思考し、判断し、表現することができる。		適切な言語をもって、思考し、判断し、表現することができる。		適切な言語をもって、正確に思考し、判断し、表現することができない。
評価項目3	自らの言語能力を有機的に連関させ、他者と極めて円滑に意見交換できる。		自らの言語能力を有機的に連関させ、他者と円滑に意見交換できる。		自らの言語能力を有機的に連関することができず、他者と円滑に意見交換することができない。
評価項目4	日本の伝統的な言語文化に積極的に親しみ、思考や感性に十分共感できる。		日本の伝統的な言語文化に親しみ、思考や感性に共感できる。		日本の伝統的な言語文化に親しみ、思考や感性に共感することができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 ① 学習・教育到達度目標 ② 学習・教育到達度目標 ⑥					
教育方法等					
概要	現代文・表現・古文・漢文をバランスよく学習し、それによって、学生の話す・聞く・書く・読むという言語活動に関わる実践的能力を磨く。また、言語を用いたコミュニケーションや日本の伝統的な言語文化に対する興味や関心を育む。				
授業の進め方・方法	授業は講義・演習形式で行う。いずれの形式であっても、学生には口頭発表や作文、板書等を通じて、自分の考えを表現する機会を設ける。また、計画的に漢字テストと速読ドリルを行い、国語の運用において必要な知識を習得してもらう。表現の授業は適宜『S メソッドによる伝え合う力のトレーニング (四訂版)』 (本校教員) を用いて行う。				
注意点	前期試験 (中間・期末)・後期試験 (中間・期末) の平均点を70%程度、小テスト・口頭発表・課題提出物を30%程度で評価する。しかし、その他にも、授業への積極性や予習・復習への取り組み、漢検や作文コンクールへの参加や入賞なども、その内容に応じて評価に加える。				
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標
		1週	ガイダンス、【表現】読書体験記、【表現】発声・発音、【随想】「『待つ』ということ」①②		授業の進め方・評価方法を理解する。口頭表現の基本を理解し、実践する。随想の内容を理解する。
		2週	【表現】インタビューゲーム①②、【評論】「水の東西」①		対話の方法を理解し、実践する。評論の内容を理解する。
		3週	【評論】「水の東西」③④、【読解から表現へ】比較		評論の内容を理解する。論理的表現法について理解する。
		4週	【古文】古文入門①②、【表現】図書館で情報を収集する		古文の基礎を理解する。図書館を利用した情報収集の仕方を理解する。
		5週	【古文】古文入門③、「伊勢物語」①②		古文の基礎を理解する。古文の内容を理解する。
		6週	【古文】「伊勢物語」③④⑤		古文の内容及び文学史的事項を理解する。
		7週	【表現】レポートを書く①②、推敲		文章表現の方法 (文章構成・論理的思考を含む) を理解し、実践する。
	8週	前期中間試験		これまでの範囲を理解する。	
	2ndQ	9週	試験答案の返却・解説、【評論】「言語は色眼鏡である」①②		試験の解答を理解する。評論の内容を理解する。
		10週	【評論】「言語は色眼鏡である」③④⑤、【読解から表現へ】要約		評論の内容を理解する。論理的表現方法について理解し、実践する。
		11週	【漢文】漢文入門①②		漢文の基礎を理解する。
		12週	【漢文】故事成語①②③		漢文の内容を理解する。
		13週	【漢文】漢詩①②		漢詩の内容を理解する。
		14週	【小説】「清兵衛と瓢箪」①②③		和歌の基礎を理解する。
		15週	(前期定期試験) 試験答案の返却・解説、【表現】本の紹介プレゼン、【評論】「『もの』の科学から『こと』の科学へ」①		試験の解答を理解する。口頭での表現活動 (意見交換を含む) を行う。評論の内容を理解する。
16週					
後期	3rdQ	1週	【評論】「『もの』の科学から『こと』の科学へ」②③④		評論の内容を理解する。
		2週	【評論】「『もの』の科学から『こと』の科学へ」⑤、【読解から表現へ】論理的構成、【表現】マイクロディベート①②		評論の内容を理解する。論理的表現方法について理解する。

		3週	【表現】マイクロディベート③、【古文】「徒然草①	議論の方法（論理的思考を含む）を理解し、実践する。 古文の内容を理解する。
		4週	【古文】「徒然草」②③④	古文の内容を理解する。古文の文学史的事項を理解する。
		5週	【古文】「徒然草」⑤⑥、【小説】「羅生門」①、【読解から表現へ】引用	古文の内容を理解する。小説の文学史的事項を理解する。論理的表現方法について理解する。
		6週	【小説】「羅生門」②③④	小説の内容を理解する。
		7週	【小説】「羅生門」⑤⑥、【表現】創作	小説の内容を理解する。創造的な表現活動を行う。
		8週	後期中間試験	これまでの範囲を理解する
	4thQ	9週	試験答案の返却・解説 【評論】「情報と身体」①②	試験の解答を理解する。評論の内容を理解する。
		10週	【評論】「情報と身体」③④⑤	評論の内容を理解する。
		11週	【詩】「旅上」「サーカス」①②③	詩の文学的事項および内容を理解する。
		12週	「百人一首」かるた、【漢文】史話①	日本の伝統文化を楽しむ。漢文の内容を理解する。
		13週	【漢文】史話②③④	漢文の歴史的背景および内容を理解する。
		14週	【漢文】「論語」・「孟子」①②③	漢文の歴史的背景および内容を理解する。
		15週	【表現】ニュース原稿を読む、名作の朗読	一年間学んだことを応用し、表現を工夫して口頭発表を行う。
		16週	（後期定期試験）試験答案の返却・解説	これまでの範囲を理解する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	1
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	1
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	1
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	1
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	1
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	1
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	1
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	1
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	1
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	1
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	1
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	1
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	1
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	1
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	1
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	1
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	1
				合意形成のために会話を成立させることができる。	1
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	1
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	1
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	1
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	1
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	1
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	1
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	1
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	1

				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	1		
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	1		
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	1		
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	1		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0